

平成17年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
 兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
 最終日:平成17年5月29日(日)
 会場:関わかくさプラザ

男子の部

<審判>

決勝リーグ 岐阜総合 89 $\left[\begin{array}{l} 24 - 22 \\ 18 - 9 \\ 17 - 10 \\ 30 - 20 \end{array} \right] 61$ 岐阜 相宮俊郎・角平和優
 (2勝) (2敗)

岐阜総合はオールコート2-2-1ゾーンから3-2のゾーン、岐阜はマンツーマンディフェンスでスタート。岐阜総合は、杉本の積極的な1対1からのシュート、赤座のシュートなどで得点を重ねる。またディフェンスの激しいプレッシャーから速いゲーム展開に持ち込み、相手のファウルを誘っては確実にフリースローを決めていく。岐阜も 瀧瀬を起点に 林、平田のシュートで得点をあげる。前半は42-31と岐阜総合が11点リードで折り返す。

後半、岐阜総合は相手のミスに乗じて 坂下、赤座、杉本らが要所でシュートを決め、追い上げを許さない。第4ピリオドでは、岐阜は2-3ゾーンディフェンスに変えて流れを取り戻そうと試みるが、次第に疲れからミスが出て差は縮まらない。結局最後まで足が止まらなかった岐阜総合が89-61で勝ち、決勝リーグ2勝目をあげた。(津田健介)

決勝リーグ 美濃加茂 86 $\left[\begin{array}{l} 16 - 19 \\ 19 - 19 \\ 32 - 10 \\ 19 - 20 \end{array} \right] 68$ 中津川工 小牧秀則・山田祐治
 (2勝) (2敗)

美濃加茂3-2ゾーン、中津川工マンツーマンディフェンスで開始。最初は両チームともミスが出たが、速攻の得点を活かした中津川工が19-16とリードする。第2ピリオドに入ると美濃加茂はマンツーマンに変え、安藤の4本の3点シュートを中心に追い上げるが、中津川工も 田口の3点シュート、土井のゴール下シュートで対抗し、一進一退の攻防が続く、中津川工が38-35と3点リードのままハーフタイムを迎える。

第3ピリオドに入ると美濃加茂のディフェンスの当たりが激しくなり、相手のミスを誘うと 熊沢、楯の1on1などで次々に加点していく。中津川工もタイムアウトを取るなど反撃のきっかけをつかもうとするが美濃加茂の流れは変わらず、67-48と大量リードを奪って第3ピリオド終了。第4ピリオドに入ると中津川工はオールコートマンツーマンを仕掛けて反撃し、一時は10点差まで詰め寄る。しかし美濃加茂は冷静な試合運びでリードを守りきり、決勝リーグ2勝目を上げた。(打江謙二)

決勝リーグ 岐阜総合 88 $\left[\begin{array}{l} 19 - 9 \\ 24 - 19 \\ 27 - 19 \\ 18 - 15 \end{array} \right] 62$ 美濃加茂 増田博徳・松野瑞穂
 (3勝) (2勝1敗)

岐阜総合1-2-2ゾーンプレス、美濃加茂ハーフコートマンツーマンでスタート。岐阜総合は 桑原のシュートで先制し、またリバウンドを支配しては速い展開に持ち込んで、杉本のドライブイン、ミドルシュートなどで加点し、第1ピリオドを19-9とリードする。第2ピリオドに入っても岐阜総合は全員でリバウンドに跳び、速攻に走り、新川のシュート、杉本のドライブで加点する。ここで美濃加茂は 安藤が2連続3点シュートを決めると 伊藤がポストプレーで粘りを見せ、差を縮める。しかし岐阜総合は前半終了間際、杉本、新川が続けて3点シュートを決め、43-28とリードを広げてハーフタイムを迎える。

第3ピリオドに入っても、岐阜総合の勢いは止まらない。坂下、赤座がスピードのあるドリブルでボールを運び、杉本、赤座が次々とシュートを決めていく。美濃加茂は 桂川、熊澤が個人技で粘りを見せるが、単発な攻撃に終わり反撃の糸口をつかめない。

結局、最後までスピードを落とさずに走り勝った岐阜総合が3年連続3回目の優勝を飾り、新たな歴史をまた一步踏み出していった。(山田祐治)

決勝リーグ	中津川工 (1勝2敗)	71	$\begin{bmatrix} 24 - 13 \\ 11 - 13 \\ 16 - 16 \\ 20 - 15 \end{bmatrix}$	57	岐 阜 (3敗)	細井恒樹・棚橋英一
-------	----------------	----	--	----	-------------	-----------

中津川工はオールコートマンツーマン、岐阜はハーフコートマンツーマンディフェンスでスタートする。中津川工は 田口の外角シュートとゴール下へのアシストを起点に得点を重ねる。また相手のPGがベンチに下がった隙に激しいディフェンスでミスを誘い、さらに点差を広げる。岐阜は平田のポストプレーを中心にゴール下で粘りを見せるが、思うように得点が伸びない。前半は35-26と中津川工が9点リードで折り返す。

第3ピリオドに入っても、中津川工は 三尾を中心にディフェンスを頑張りボールを奪うが、外角シュートがなかなか決まらない。岐阜も 纈纈、林が粘ってついていく。一進一退のまま中津川工の9点リードで最終ピリオドに入る。第4ピリオド、岐阜は3-2ゾーンディフェンスに変え、流れを変えようとする。しかし中津川工は 田口の3点シュート、水野のシュートが決まり、粘る相手突き放す。40分間激しいディフェンスを続けた中津川工が71-57で勝利し、3位となった。(岩永英夫)

女子の部

< 審判 >

決勝リーグ	岐阜女子 (2勝)	144	$\begin{bmatrix} 35 - 13 \\ 36 - 5 \\ 26 - 6 \\ 47 - 6 \end{bmatrix}$	30	関商工 (2敗)	早野宏樹・長屋 貴
-------	--------------	-----	---	----	-------------	-----------

岐阜女子マンツーマン、関商工1-3-1ゾーンディフェンスでスタートする。岐阜女子は開始当初から 王の高さを活かした攻撃を軸に、スタートメンバー全員が次々に得点をあげ、一気にリードを奪う。関商工も 浅野がインサイドで頑張り10点をあげたが、高さ、スピードとも及ばない。第2ピリオドに入っても、岐阜女子はディフェンスをオールコート2-2-1ゾーンプレスに変え、次々とボールを奪うと、確率の高いシュートを決め、前半で71-18とリードして大勢を決する。

第3ピリオドでは、岐阜女子はスタートメンバーを全員ベンチに下げるも、選手層の厚さを見せ、攻撃の手を緩めない。最後までオールコート走り続けた岐阜女子は144-30と大差をつけて決勝リーグ2勝目を飾った。関商工も交代メンバーが頑張りを見せたが、力の差が大きすぎた。(宮崎泰彦)

決勝リーグ	県岐阜商 (2勝)	72	$\begin{bmatrix} 17 - 12 \\ 20 - 20 \\ 15 - 10 \\ 20 - 9 \end{bmatrix}$	51	加 茂 (2敗)	安藤 聡・田中昭博
-------	--------------	----	---	----	-------------	-----------

県岐阜商はハーフコートマンツーマン、加茂はオールコート2-1-2ゾーンディフェンスでスタートする。県岐阜商は 柴田のミドルシュート、さらにアシストによる活躍で一步リードを奪う。加茂も堀内のポストプレー、渡辺のミドルシュート、ドライブで対抗する。第2ピリオドに入ると、県岐阜商は 柴田のミドルシュートに加えて、小野島の3点シュートが効果的に決まりリードを広げたが、加茂もディフェンスのトラップが成功し、堀内、渡辺のインサイドプレーで追い上げる。前半は県岐阜商が37-32とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると県岐阜商はディフェンスをオールコート2-2-1ゾーンに変え、相手のミス誘っては 松永が速い攻撃を仕掛ける。加茂も 渡辺のゴール下シュートで食い下がり追い上げを図る。しかし第4ピリオドに入ると、加茂は疲れが見え始めターンオーバーが増えてくる。県岐阜商は最後までディフェンスを頑張り、速攻でも走り勝って72-51と勝利を勝ち取り、決勝リーグ2勝目をあげた。加茂も 小島の3点シュートで対抗したが、決め手に欠け、最後には力尽きた。(棚橋英一)

決勝リーグ	岐阜女子 (3勝)	94	$\begin{bmatrix} 25 - 5 \\ 20 - 13 \\ 23 - 11 \\ 26 - 4 \end{bmatrix}$	33	岐阜卓商 (2勝1敗)	室谷伸治・後藤慎二
-------	--------------	----	--	----	----------------	-----------

新人大会に続いて連覇を狙う岐阜女子と、それを打ち破ろうとする岐阜卓商が激突した決勝戦。両チームともマンツーマンでスタートする。岐阜女子は 安井、服部、U18代表 富崎のシュートで幸先良いスタートを切る。さらにインターセプトから 服部がシュートを決め、一気に点差をつける。岐阜卓商もU18代表の 柴田がシュートを狙うも、岐阜女子のセンター 王(190cm)が立ちはだかり、シュートが決まらない。第2ピリオドに入ると、岐阜卓商はディフェンスをオールコート2-2-1ゾーンに変え、小野島の3点シュート、小倉のシュートで必死に食い下がる。しかし岐阜女子は 王のゴール下シュート、富崎のシュート、小野の速攻などで加点し、前半で45-18と大量リードを奪った。

第3ピリオドに入っても岐阜女子の勢いは止まらず、さらに点差を広げ、圧倒的な高さで速さを見せつけ、94-33の大差で12年連続14回目の優勝を果たした。千葉インターハイでの活躍を期待したい。岐阜卓商もディフェンスを頑張り、高橋、松永のシュートなどで対抗したが、力及ばず2位に終わった。(長屋 貴)

決勝リーグ	加茂 (1勝2敗)	47	$\begin{bmatrix} 13 - 5 \\ 12 - 16 \\ 12 - 9 \\ 10 - 11 \end{bmatrix}$	41	関商工 (3敗)	大野貴司・清水 潤
-------	--------------	----	--	----	-------------	-----------

共にシードチームを破り決勝リーグに進んだ、同地区のチーム同士の戦いとなった。どちらもディフェンスを工夫し、関商工はオールコート2-2-1から1-3-1ゾーンディフェンス。加茂はダイヤモンドワンをしき、相手のキーとなる 酒向に自由にプレーさせないように仕組む。加茂はゾーンをうまく攻め、堀内のシュートなどで加点する。関商工も 青木、酒向が頑張り、シュートを決める。前半を終わって25-21と加茂が一歩リードする。

第3ピリオドに入っても、加茂は 堀内がリバウンドを奪うと速攻に走り、またインサイドでも得点をあげてリードを保つ。関商工もゾーンプレスを仕掛け、点差を詰めようとする。第4ピリオドの勝負所、互いにシュートが決まらないが、加茂は 堀内が確実にリバウンドを制して流れを譲らず、47-41で逃げ切り3位に輝いた。関商工も 鈴木の3点シュート、浅野のシュートで追い上げを図ったが、相手の高さに屈した。(下畑耕一)